

米国、カナダ、オーストラリア 3カ国の豆類の生産見通し概況

米国：2015年7月10日等公表

USDA Crop Production

5月農業概況（2015年6月10日公表）

5月に米国東部で平年並みを上回る気温が続いたことから、生産者は春の始めの低温及び湿潤な天候による農作業の遅れを取り戻すことができた。コーンベルト地帯東部及び米国北東部の大部分の地域では、5月の月別平均気温が平年並みを2.2℃以上上回った。太平洋沿岸北東部を除き、米国西部の大部分の地域で5月の平均気温は平年並みを下回り、大平原及びロッキー山地で作付けが遅れ、作物の生育が遅れた。大平原南部では5月いっぱい多雨が続いたことから、オクラホマ州及びテキサス州では旱魃からほぼ回復したが、豪雨、洪水及び強風により、この地域全体で地域社会及び作柄に被害が生じている。

6月農業概況（2015年7月10日公表）

コーンベルト中央部及び東部では、6月の平年並みの降雨量の200%を記録し、春の農作業の遅れ及び収穫率の低下が引き起こされている。イリノイ州、インディアナ州及びオハイオ州では、6月としては1895

年以来最も湿潤な天候となった。太平洋沿岸、特にカリフォルニア州、オレゴン州及びワシントン州の主要生産地域では乾燥した状態が続き、6月の降雨量は2.54mm未満であった。月別平均気温は米国全体では概ね平年並みを上回っており、太平洋沿岸北東部では6月の平年並みの気温を3.3℃以上上回った。例外は、テキサス州南部、五大湖地域及びニューイングランド地域であって、6月の平年並みの気温を0℃から2.2℃下回った。

レンズマメ

作付面積は前年に比べて73%増加して、19万6,270haとなるものと推定されている。収穫面積は18万9,390haと推定されており、前年に比べて81%の増加となっている。作付面積は、推定値としては過去最高記録であった2010年の26万6,000haに次いで二番目に高い値となっている。モンタナ州では、6月21日までに全体の99%が出芽しており、前年の91%を上回っている。6月28日までに全体の56%が開花しており、前年の34%を上回っている。6月下旬の時点では、大部分の作柄が平年並みから良とされている。ノースダコタ州では、4月始めから半

ばにかけて作付けが行われ、5月24日の時点で全体の97%の作付けが終了しており、この値は前年を40%上回っている。7月5日の時点で、全体の76%が開花しており、前年の41%を上回っている。7月5日の時点での作柄は79%で、良から優良となっている。

乾燥エンドウ

乾燥エンドウの作付面積は前年に比べて5%増加して39万6,600haとなるものと推定されている。収穫面積は、前年に比べて3%増加して37万5,150haとなる見込みである。これは過去最高記録の作付面積であり、推定通りに実現すれば、収穫面積も過去最高記録となる。モンタナ州では、乾燥エンドウの97%が6月7日までに萌芽しており、前年の90%を上回っている。6月28日までに全体の80%が開花しており、大部分の作柄が平年並みから良となっている。ノースダコタ州では、最近5年間の平均と同じ4

月第2週から作付けが始まった。5月24日の時点で全体の97%の作付けが終了しており、この値は前年の57%を上回っている。6月28日の時点で、全体の57%が開花したと報告されており、最近5年間の平均値34%を大きく上回っている。6月28日の時点での大部分の作柄は、良から優良となっている。

オーストリアンウインターピー

オーストリアンウインターピーの作付面積は、前年に比べて17%増加して1万1,330haと推定されている。収穫面積は、2014年度に比べて25%増加して8,500haとなる見込みである。

表1 米国の豆類の作付面積、収穫面積、単収及び生産量（2014年度及び2015年度）

	作付面積 (ha)		収穫面積 (ha)		単収 (t/ha)		生産量 (t)	
	2014	2015	2014	2015	2014	2015	2014	2015
オーストリアンウインターピー	9710	11330	6800	8500	1.5		10180	
乾燥インゲンマメ	695620	691570	674090	670490	1.97		1324760	
乾燥エンドウ	378390	396600	364020	375150	2.14		778140	
レンズマメ	113720	196270	104810	189390	1.46		152720	
リンクルドシードピー	(未詳)		(未詳)		(未詳)		28030	

[データは入手可能な最新の推定値であり、最新の報告書または前回の報告書の推定データに基づいている。現行年度の推定は2015収穫年度全期間に関するものである。空欄は、推定期間がまだ始まっていないことを示す]

乾燥エンドウにはリンクルドシードピー及びオーストリアンウインターピーを除く
2015年7月10日公表、米国農務省 (USDA)、農業統計委員会、国内農業統計局 (NASS)

表2 州別作付面積及び収穫面積 (2014年度及び2015年度)

乾燥エンドウ				
州名	作付面積 (ha)		収穫面積 (ha)	
	2014	2015	2014	2015
アイダホ州	18,615	19,424	17,806	19,020
モンタナ州	212,459	220,553	203,961	204,366
ノースダコタ州	107,241	111,288	103,194	107,241
オレゴン州	3,642	2,832	3,439	2,428
ワシントン州	36,421	42,491	35,612	42,087
米国全体	378,390	396,600	364,020	375,150
レンズマメ				
アイダホ州	10,117	14,163	9,712	13,759
モンタナ州	52,609	93,077	48,157	89,030
ノースダコタ州	30,351	64,749	26,709	62,726
ワシントン州	20,638	24,281	20,234	23,876
米国全体	113,720	196,270	104,810	189,390
オーストリアンウインターピー				
アイダホ州	3,642	5,260	3,237	4,451
モンタナ州	4,856	4,046	2,832	2,428
オレゴン州	1,214	2,023	809	1,618
米国全体	9,710	11,330	6,800	8,500

2015年7月10日公表、米国農務省 (USDA)、農業統計委員会、国内農業統計局 (NASS)

カナダ：2015年6月18日公表

AAFC Outlook for Principal Field Crops

本報告書は、5月に公表されたカナダ農業食糧省 (AAFC) の2014/15作物年度及び2015/16作物年度の生産見通し報告書を更新するものである。大部分の作物について、カナダの作物年度は8月1日に始まり、7月31日に終了する。

豆類

乾燥エンドウ

2014/15作物年度のカナダの輸出量は、2013/14作物年度に比べて11%増加して300万tとなったが、これは中国への輸出量

の減少分が、バングラデシュ及び米国への輸出量の増加分によって相殺されたことによるものである。米国の乾燥エンドウ生産量が過去最高記録であったにも関わらず、8月から4月までの期間で見ると、カナダから米国への輸出量は前年同時期に比べて大幅に増加している。輸出量の増加を反映して、カナダの期末在庫量は減少する見込みである。国内需要の減少による影響が輸出需要の増加によって緩和されるので、エンドウの平均価格は、2013/14作物年度に比べてわずかに低下する見込みである。

緑色乾燥エンドウの黄色乾燥エンドウに対する価格上乗せ分は、作物年度を通して平均40ドル/tとなるものと予測されており、過去最高記録だった2013/14作物年度の上乗せ分160ドル/tと対照的である。5月の1カ月間に、緑色乾燥エンドウの生産者価格は約15ドル/t上昇し、その一方で黄色乾燥エンドウの生産者価格は18ドル/t上昇した。これは、引き続き輸出需要が記録的な水準で推移していることによるものである。

2015/16作物年度の作付面積は2014/15作物年度に比べてわずかに増加する見込みであり、これは、他の作物に比べて収益性が高いことによるものである。州別に見ると、サスカチュワン州が乾燥エンドウ作付面積全体の61%を占めており、アルバータ州が37%を占め、残りをマニトバ州及びブリティッシュコロンビア州が占めている。生産量は7%増加して過去最高記録に近い370万tとなる見込みであるが、これは平均単収が向上したと栽培面積が増加した

ことによるものである。しかし、期初在庫量が少なかったことから、供給量の増加はわずかなものに留まる見込みである。輸出量はわずかに減少するものと見込まれており、インド及び中国が引き続きカナダ産乾燥エンドウの市場として1位と2位を占めている。期末在庫量もまた大幅に増加する見込みであるが、それでも平年並みを下回る値となっている。

米国の乾燥エンドウ作付面積は、米国農務省の予測によれば、7%増加して過去最高記録に近い水準となる見込みである。これは主として、モンタナ州及びノースダコタ州で作付面積の増加が見込まれていることによるものである。単収及び収穫を断念する割合が平年並みであるとすると、米国の乾燥エンドウ生産量はAAFCの予測によれば、3%増加して過去最高記録に近い80万tとなる見込みである。米国は中国及びインドへの少量の乾燥エンドウの輸出に成功しており、2015/16年度も引き続き、米国がこの市場に占める比率を広げる見込みである。

レンズマメ

2014/15作物年度の輸出量は、2013/14作物年度に比べて増加して180万tとなる見込みである。主な市場は引き続きインド、トルコ、アラブ首長国連邦及びEU-27カ国である。国内総利用量は減少して30万tとなる見込みである。期末在庫量は減少して、2009/10作物年度以来の最低水準となる見込みである。等級分布が平均水準を下回る見込みであるにも関わらず、期末在庫量が

ごく少ないことから、レンズマメ全品種の平均価格は前作物年度に比べて上昇する見込みである。

赤色レンズマメは大粒緑色レンズマメに対して、2011/12作物年度以来最大の大幅な上乘せ価格（130カナダドル/t）を維持している。5月の1ヵ月間にサスカチュワン州の大粒緑色レンズマメの生産者価格は55ドル/t以上上昇し、赤色レンズマメの生産者価格は100ドル/t以上上昇した。これは主として、大粒緑色レンズマメも赤色レンズマメもともに5月を通して輸出需要が安定しており、国内供給量が少なかったことによるものである。

2015/16作物年度のカナダのレンズマメ作付面積は7%増加して136万haとなる見込みである。これは、輸出需要が引き続き強く、2014/15作物年度に比べて品質の向上への期待があることによるものである。サスカチュワン州がレンズマメ作付面積全体の97%を占め、残りをアルバータ州が占めている。生産量は増加して過去最高記録に近い215万tとなる見込みであるが、期初在庫量が少なかったことから、供給量の増加はわずかなものに留まる見込みである。輸出量は、2014/15年度と同じ175万tとなる見込みである。期末在庫量は引き続き増加するが、歴史的に見てごく少ない10万tとなる見込みである。カナダ産レンズマメへの強い輸出需要が3年連続で高水準を維持するとすれば、平均価格は、2014/15年度に比べて上昇すると予測されている。

米国の2015/16作物年度のレンズマメ作

付面積は、米国農務省の予測によれば、2014/15作物年度に比べて37%増加して40万エーカー（16万2,000ha）となる見込みであるが、これはモンタナ州及びノースダコタ州で作付面積が減少したことによるものである。単収及び収穫を断念する割合が平年並みであるとする、2015/16作物年度の米国のレンズマメ生産量は、カナダ農業食糧省（AAFC）の予測によれば、2014/15作物年度に比べて大幅に増加して21万tとなる見込みである。現時点での米国産レンズマメの主要な輸出市場は、引き続きインド及びEU-27カ国となる見込みである。

乾燥インゲンマメ

2014/15作物年度の乾燥インゲンマメ輸出量は、前作物年度と同じとなるものと見込まれている。米国及びEU-27カ国が引き続きカナダの乾燥インゲンマメの主な市場であり、これより少量が日本、エジプト及びアンゴラへ輸出されている。北米全体の供給量の増加が見込まれていることで、2014/15作物年度も引き続き米国及びカナダの乾燥インゲンマメ価格全般が抑えられる見込みである。

2015/16作物年度のカナダの乾燥インゲンマメ作付面積は、2014/15作物年度に比べて10%減少するものと見込まれており、これは前年度に比べて収益性が低くなったことによるものである。州別に見るとオンタリオ州が乾燥インゲンマメ作付面積全体の46%、マニトバ州が27%、アルバータ州が25%で、残りがケベック州となっている。

生産量は11%減少して25万tを下回る見込みであるが、期初在庫量が多かったことから、供給量はわずかに増加する見込みである。期末在庫量もまた減少する見込みである。北米全体の供給量が増加する見込みであることから、カナダの乾燥インゲンマメ平均価格は、特にホワイトピー・ビーン及びピントー・ビーンについて低下するものと予測されている。

米国の乾燥インゲンマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、わずかに増加して155万エーカー（62万7,000ha）近い値となる見込みであるが、これはミシガン州及びミネソタ州で作付面積が増加していることによるものである。単収及び収穫を断念する割合が平年並みであるとする、2015/16作物年度の米国の乾燥インゲンマメ生産量（ヒヨコマメを除く）は、カナダ農業食糧省（AAFC）の予測によれば、2014/15作物年度に比べて4%増加して125万tとなる見込みである。

ヒヨコマメ

2014/15作物年度のカナダのヒヨコマメ輸出量は、大幅に増加して7万tとなる見込みである。これは主として中東諸国、EU-27カ国及び米国への輸出需要が増加したことによるものである。EU-27カ国及び米国がカナダのヒヨコマメ輸出市場の上位2位までを占めている。しかし、このように輸出需要が強まっていることで期末在庫量が減少する見込みはない。期末在庫量もまた増加する見込みであり、これによって価

格が抑えられる恐れがある。カナダ及び世界全体の供給量が多いことから、平均価格は前年と同様となるものと予測されている。

期初在庫量が多く、他の作物に比べて北米全体で価格が低下していることから、2015/16作物年度の作付面積は2014/15作物年度に比べて減少する見込みである。州別に見ると、サスカチュワン州がヒヨコマメ作付面積全体の93%を占め、残りをアルバータ州が占めている。生産量は減少して11万5,000tとなる見込みである。供給量は前年に比べて減少する見込みであるが、期初在庫量が多かったことから、減少率は4%に留まるものと予測されている。輸出量は2014/15年度と同様であり、期末在庫量は、わずかではあるが減少する見込みで

ある。世界的に供給が安定しており、中東諸国からの輸入需要が引き続いていることから、平均価格は、ほぼ横這いの状態を維持する見込みである。

2015/16作物年度の米国のヒヨコマメ作付面積は減少して、2011/12作物年度以来初めて20万エーカー（8万1,000ha）を下回るものと予測されている。これは主として、アイダホ州及びワシントン州で作付面積の減少が見込まれることによるものである。単収及び収穫を断念する割合が平年並みであるとすると、2015/16作物年度の米国のヒヨコマメ生産量は、AAFCの予測によれば、2014/15作物年度に比べてわずかに増加する見込みである。

表3 カナダの豆類作付・収穫面積、単収、生産量その他

	乾燥エンドウ [a]			レンズマメ [a]			乾燥インゲンマメ [a]			ヒヨコマメ [a]		
	2013-14	2014-15[f]	2015-16[f]	2013-14	2014-15[f]	2015-16[f]	2013-14	2014-15[f]	2015-16[f]	2013-14	2014-15[f]	2015-16[f]
作付面積 (1,000ha)	1,345	1,536	1,550	1,060	1,263	1,356	100	126	114	77	73	61
収穫面積 (1,000ha)	1,329	1,467	1,500	1,052	1,217	1,330	100	122	110	76	70	59
単収 (t/ha)	2.98	2.35	2.47	2.07	1.63	1.62	2.32	2.27	2.25	2.33	1.87	1.95
生産量 (1,000t)	3,961	3,445	3,700	2,173	1,987	2,150	232	278	247	177	131	115
輸入量 (1,000t) [b]	25	30	20	9	15	10	73	80	70	9	8	8
総供給量 (1,000t)	4,160	3,784	3,820	2,479	2,166	2,210	335	363	352	240	269	258
輸出量 (1,000t) [b]	2,779	3,000	2,900	1,755	1,800	1,750	304	305	300	48	70	70
国内総利用量 (1,000t)[c]	1,072	684	720	560	316	360	26	23	22	62	64	63
期末在庫量 (1,000t)	309	100	200	164	50	100	5	35	30	130	135	125
在庫量/利用量 (%)	8	3	6	7	2	5	2	11	9	118	101	94
平均価格 (\$/t) [d]	260	240-270	230-260	445	555-585	585-615	995	810-840	740-770	500	485-515	485-515

[a]作物年度(8月から7月)

[b]輸入量及び輸出量には加工品の量は含まれない。

[c]国内総利用量 = 食用及び加工原料用 + 飼料用廃棄物 + 種子用 + 損耗。国内総利用量は、総供給量から輸出量及び期末在庫量を差し引いて算出した値である。

[d]生産者価格(FOB)。すべての銘柄、等級及び市場の平均。

f: 推定。カナダ農業食糧省。2015年6月18日付け。

資料: カナダ統計局及び業界団体。

オーストラリア：2015年6月10日公表 ABARES Australian crop report

概観

2015/16冬作年度の始まりは、全般的に良好な条件に恵まれた。オーストラリア南東部では、3月の降水量が平年並みを下回ったが、4月には概ね平年並みを上回る降水量が得られた。西オーストラリア州の3月及び4月の降水量は、平年並みから平年並みを上回る程度であった。5月の降水量は、オーストラリア東部の主要生産地域ではほぼ平年並みであり、西オーストラリア州の大部分では平年並みを下回った。秋季の降雨により土壌湿度が高まり、冬作物の作付けの条件が改善した。

気象庁が2015年5月28日付けで発表した最新の降水量3ヵ月予測（2015年6月から8月）では、ヴィクトリア州及び南オーストラリア州の主要生産地域では平年並みの冬季降水量に近い値となる見込みであり、西オーストラリア州の主要生産地域では平年

並みを上回る見込みである。しかし、クイーンズランド州南部の主要生産地域及びニューサウスウェールズ州の大部分の冬季の降水量は平年並みを下回る可能性が高い。

上に示した降水量3ヵ月予測（2015年6月から8月）より先の期間については、オーストラリア州東部（南オーストラリア州を含む）では春季の降水量が平年並みを下回る恐れがある。気象庁（2015年5月26日発表 ENSO Wrap-Up）によれば、太平洋の熱帯地域におけるエルニーニョ現象が引き続き強まっており、それによってオーストラリア東部の降水量が平年並みを下回る可能性が強まっている。しかし、エルニーニョ現象が作物の単収（単位面積当たり収穫量）に及ぼす影響は一様ではなく、降雨の時期がいつであるかも重要な影響を及ぼすことから、予測は難しい。エルニーニョ現象が降雨に及ぼす影響は、西オーストラリア州に比べてオーストラリア東部ではより大きなものとなりがちである。

表4 オーストラリアの豆類の作付面積及び生産量

冬作	作付面積 (1,000ha)			生産量 (1,000t)		
	2013-14	2014-15s	2015-16f	2013-14	2014-15s	2015-16f
ヒヨコマメ	508	425	677	629	555	845
ファバビーン (ソラマメ)	152	164	210	328	284	337
フィールドピー	245	237	204	342	290	254
レンズマメ	170	189	229	254	242	258
ルーピン	387	443	497	626	549	638

f：ABARESによる予測。 s：ABARESによる推定。

注：作物年度は4月1日から3月31日までの12ヵ月間に作付けされた作物を対象とする。都市部の数値及びオーストラリア北部の数値をオーストラリア全体の生産量に含めるかどうかによって、各表の間で若干の差異が生じる場合がある。

資料：ABARES（オーストラリア農業経済及び農業科学庁）、オーストラリア統計局、PulseAustralia

表5 州別生産量

	ニューサウスウェールズ州		ヴィクトリア州		クイーンズランド州		南オーストラリア州		西オーストラリア州		タスマニア州	
	作付面積 1,000ha	生産量 1,000t										
ヒヨコマメ												
2015-16f	290	346	19	30	350	455	15	11	3	3	0	0
2014-15s	209	282	26	52	165	201	21	16	3	4	0	0
2013-14	220	251	48	50	216	296	19	27	5	6	0	0
2014/15年度までの5年間の平均	271	316	41	55	189	243	16	19	5	5	0	0
フィールドピー												
2015-16f	45	65	47	57	0	0	90	104	22	29	3	2
2014-15s	51	66	51	65	0	0	110	127	25	32	1	1
2013-14	50	53	51	68	0	0	112	184	32	37	1	1
2014/15年度までの5年間の平均	44	54	54	73	0	0	111	157	56	53	1	1
レンズマメ												
2015-16f	3	2	116	108	0	0	110	148	0	0	0	0
2014-15s	1	1	86	80	0	0	102	162	0	0	0	0
2013-14	1	1	79	112	0	0	89	141	1	1	0	0
2014/15年度までの5年間の平均	1	1	86	110	0	0	96	158	1	1	0	0
ルーピン												
2015-16f	58	62	32	26	0	0	65	70	342	479	0	0
2014-15s	56	66	32	26	0	0	68	75	287	382	0	0
2013-14	57	57	28	29	0	0	56	78	246	461	0	0
2014/15年度までの5年間の平均	75	104	35	38	0	0	62	79	372	464	0	0

f: ABARES による予測。

s: ABARESによる推定。

注: 作付面積が500ha未満である場合、または生産量が500t未満である場合には、四捨五入により作付面積または生産量の推定値あるいは予測値がゼロと表示される場合がある。

資料: ABARES (オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、PulseAustralia

表6 オーストラリアの豆類供給及び利用状況

	2008-09 (1,000t)	2009-10 (1,000t)	2010-11 (1,000t)	2011-12 (1,000t)	2012-13 (1,000t)	2013-14 (1,000t)
生産量						
ルーピン	708	823	808	982	459	626
フィールドピー	238	356	395	342	320	342
ヒヨコマメ	443	487	513	673	813	629
見かけ上の国内利用量 ^a						
ルーピン	404	470	621	416	290	310
フィールドピー	104	196	95	130	145	175
ヒヨコマメ	1	1	39	93	1	0
輸用量						
ルーピン	304	353	186	565	169	316
フィールドピー	137	162	302	215	177	169
ヒヨコマメ	508	503	474	581	853	629

a: 生産量に輸入量を加えた値から、輸用量を引き、さらに在庫量に明確な変化が認められたか推定された場合には、その値を引いて算出した値。

注: 生産量、利用量、輸入量及び在庫量は、市場年度に基づいている。ピー及びルーピンの市場年度は11月から10月まで。在庫量の増減があることから、生産量は、単年度内の見かけ上の国内利用量と輸用量を足した値とは一致しない場合がある。輸用量のデータは、市場年度に基づく輸出期間を参照したものであって、他の資料で公開されている財務年度に基づく輸用量とは一致しない場合がある。

資料: ABARES (オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、PulseAustralia